



学校通信

令和5年

2月14日

河北町立

谷地中部小学校

子供は子供たちの中で育つ 自分たちで決める経験を！

1月31日(火)、6年生が、「総合的な学習の時間」に学習してきたことを発表しました。6年生は、「ふるさとを愛し、ふるさとで生きていく」を主題に、「現在と過去の河北町の姿を知り、町の良さと課題を分析し、これからの河北町のあり方と自分の生き方について考える学習」に取り組んできました。その過程で、地域の方々より昭和の河北町の様子をお聞きしたり、地域おこし協力隊の方に授業に参加いただいたりすることで学びを深めてきました。その結果、「河北町をもっと(かつてのような)賑わいのある町にしたい」という思いが強くなってきました。現在は、学んだことをグループごとにパンフレットやポスターにまとめ発信する学習に取り組んでいます。また、町観光協会のご協力によりSNSへの掲載も予定しています。今回は、イベントグループが中心となって「ふるさと！河北町のよさを知る会」を開催しました。

当日は、お客様として、シルバー人材センターでご活躍の皆様、かほくあいこども園と河北幼稚園のそれぞれの年長組のみなさんをお招きして、学習したことをイベント形式(映像やクイズなど)にして発表しました。年長組のみなさんからは、にぎやかな歓声が、シルバー人材センターの方々からは、かつての河北町を懐かしむ声が聞かれました。今回、6年生は、この発表会を開催するにあたり、「お招きしたお客様に改めて河北町の良さを知っていただきたい」という目的を持ち、自分たちで考え、話し合い、決定する学習に取り組んできました。私は、幾度となく6年生の学習の様子を参観しました。この学習に期待したことは、「大事なことは先生が(大人が)決めてくれることからの脱却」です。担任は、「教える」ティーチャーから、子供たちの考えを「引き出す」ファシリテーターとしてのスタンスを貫いていました。発表会では、お客様の反応を確かめながら自分たちでイベントを進める頼もしい6年生の姿がありました。

子供は根源的に「自分で決めたい」という気持ちを持っています。そして、自分の意思が尊重され、その力が十分に発揮された時、とても良い表情を見せてくれます。子供たちの学習の様子や休み時間の様子を見ていると、学校や家庭、地域において適切な大人の関わりのもとで、「子供たち自身で決められる場面」を設定し、成長を育んでいくことの大切さを痛感します。それでは、そのために我々、大人は何ができるのでしょうか…。それは、我々、大人一人一人が、「本来、子供たちはできる存在である」という揺るぎない信念をもち、見守り支援する時間(=子供たちが決める時間)を保障してあげることが大切であると思います。

校長 丹野 宏紀